

# 日本の中学校英語教科書にみる異文化理解<sup>1)</sup>

## —題材の観点からの教科書分析—

金 田 尚 子

### 1. はじめに

近年、毎年 1000 万人以上の人々が海外に旅行をしたり、留学をしている。また、経済活動の変化により、多くの会社が外国の企業と取引をしたり、工場や会社を外国に開設したりしている。さらに、情報伝達手段の発達により、世界中の国々と瞬時に情報のやりとりができるようになっている。外国との距離が近くなると、交流が深まるだけでなく、時には摩擦が生じることもある。そのような社会の変化に対応するために、第 15 期中央教育審議会第 1 次答申「21 世紀を展望した我が国の教育のあり方について」では国際理解教育のあり方を示し、豊かな人間性をもち、国際社会を生き抜く子供を育成するという目標を提示している（亀井他編，1996）。それを基に近年の学習指導要領でも国際化を推進する動きを示している。

それでは具体的に国際社会を生き抜くためにはどのようなことを学校で教えていけばいいのであろうか。まずは、コミュニケーションを図ることが出来るようにするために外国語を学ぶこと。そして、言葉だけを学ぶのではなく、その言葉の背景にある文化を理解していくことである。さらに、世界中に存在する様々な文化について、自文化との違いを認識し理解させることである。学校教育の中でこのような条件を満たすのは外国語教育であろう。現在の外国語教育では英語がほとんどの日本の中学校で履修されており、国際社会を生き抜く力を身につけるという点で英語教育が重要な役割を果たしている。通常、日本の学校教育では教科書を使用して授業を行っている。また

その教科書は学習指導要領を基準に編纂されているため、教科書の題材を見ると国際化に対する国の考え方を見ることができるだろう。

本論文では日本の中学校英語教科書における異文化理解の扱いを知るために、題材の観点から教科書分析を行う。まず、臨時教育審査会答申（以下臨教審答申）、中央教育審議会答申（以下中教審答申）や近年の学習指導要領などの教育政策から、異文化理解についての記述を考察する。次に、1997年と2002年に使用開始になった教科書を題材の観点から分析する。そして、結果を分野別、地域別に分析し、教科書における異文化理解を考察していきたい。

## 2. 教育政策から見る異文化理解の推進状況

臨時教育審査会（以下臨教審）は昭和59年8月に当時の中曽根内閣総理大臣から「我が国における社会の変化及び文化の発展に対する教育の実現を期して各般にわたる施策に関して必要な改革を図るための基本的な方策について」の諮問を受けて以来、3年にわたり教育改革に関して第1次から第4次まで答申を提出してきた。答申が出された1980年代は、戦後復興期を脱して、高度経済成長期に入り世界有数の先進国の仲間入りを果たしていた。また、多くの人々が海外へ訪れるようになり、人的な交流も広がっている中、文化的な摩擦が起こることもしばしばであった。答申ではそのような国際社会で日本が発展を続けていくためには、先進国としての地位にふさわしい国際貢献をしなければならないとしている。また、日本文化を身につけ、国際社会で活躍することが出来る日本人となる1人の人間としての成長を目標とした教育や、交流時に生じる文化摩擦を解消できるように、諸外国の文化や伝統などについての理解を深めさせることができる教育を確立することが、教育改革における国際化への対応に関する基本的な考えであるとしている。

教育改革の課題として、留学生の受け入れ、外国の高等教育機関との交流、国際理解教育、語学教育、海外子女・帰国子女教育などの在り方が検討

された。外国語教育の見直しについては、受身的な態度を改め、自分の意見や立場を主張し、相互理解を深める必要性が指摘され、教育内容も文法・読解中心から、コミュニケーションを図るための国際通用語習得の側面に重点を置くこと、大学入試に際してはTOEFLなど第3者機関が行う検定試験などの結果を用いて正当に評価すること、外国語教員の養成や研修の見直しを挙げている。また、主体性の確立と相対化については「人間関係の基礎としての社交能力が体得されなければならない。例として、海外にあってはその国の国旗・国歌等に対して敬意を払うなど、国際的に常識とされている基本マナーを身に付け、現地の文化や習慣を尊重する謙虚さを失わないようにしなければならない。」としている（文部省，1987: 246）。また、これまであまり目を向けられてこなかった近隣諸国に関する知識については、その国々の社会風土に即した理解に努めなければならないとしている。

この答申の影響を受けて、平成元年公示の学習指導要領における外国語科の目標は以下のように設定された。

外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を深め、国際理解の基礎を養う。

昭和52年公示の学習指導要領にはなかった「文化」や「国際理解」という言葉が追加されており、異文化理解をより推進していこうという姿勢の表れと見られる（江利川，1992）。

1990年代になると、ますます人や情報や経済の交流が世界規模で進んできた。国際化と教育については、第15期中央教育審議会第1次答申「21世紀を展望した我が国の教育のあり方」で1章を割いて論じられている。その中で、国際化の状況に対応した教育を行うためには異なった文化に対して優劣をつけるのではなく、それぞれの違いを違いとして認識できるようにすること。それと同時に日本の文化や伝統を理解したうえで、日本人としてまた

個人として自分自身が誰であるかを理解することが重要となってくるとしている。また、自分達の意見を述べて相互理解を深めていくために、コミュニケーション能力を重視すべきであるとしている。外国語教育の改善についてはコミュニケーションの手段としての外国語の観点から、スピーキングやリスニングなどのコミュニケーション能力の育成に重点を置くべきであるとしている（亀井他編，1996）。これを受けて、平成11年公示の学習指導要領では外国語科における目標は以下のように設定された。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をはかり、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

平成11年公示の学習指導要領では、コミュニケーション能力の育成重視の姿勢が見えてくる。また、学習指導要領第1章総則第4章では、総合的な学習の時間で国際理解活動を行うことが出来るとしている。このような流れが教育政策における異文化理解の流れである。

### 3.1 英語教科書と題材

言葉を使う時、何か伝えたい内容を、言葉を使って伝えている。そこから考えると、英語教科書で文法などの言語材料を習う時、単に文法事項を学ぶのではなくその言語材料を使用する内容も重要となってくる。それが題材である。青木（1991）は英語科教育の目標の要約として、①学習する英語を理解し、英語で表現する基礎的な能力、②英語でコミュニケーションをしようとする態度、③言語と文化に対する関心、④国際理解とし、その中で③と④が題材と深い関連があるとしている（P.91）。また、英語教科書における題材の重要性について、青木（1991）は「題材については色々と意見は分かれるが、英語を学びながら英語国以外の文化にも視野を向けた教材が必要なのであり、そこに題材の重要性がある。」としている。また英語は他教科

同様義務教育の1つとして考えられているため、「人間教育、国民教育に貢献する存在でなければならず、単に英語だけが技能科目として運用能力だけで満足してよい教科ではない」（青木1991: 107）と述べている。

では、学習指導要領は教材選定の観点についてどのような記述があるであろうか。まず、平成元年公示の学習指導要領では生徒の心身の発達段階及びその興味や感心に即して適切な題材を選ぶ際、配慮すべき観点を以下のように示している。

- ア 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる人間としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つ
- イ 言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるとともに、豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- ウ 世界や我が国の生活や文化についての理解を深め、国際的な視野を広げ、公正な判断力を養うのに役立つこと。

題材についても、「国際理解」を深められるよう、会話形式や物語形式など様々な題材形式を用いて、英語使用者を含めた世界の人々の言語や文化を取り扱うことにしている。

次に平成11年公示の学習指導要領では題材を選ぶ際、以下の点に配慮すべきであるとしている。

- ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い心情を育てるのに役立つこと。
- イ 世界や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる人間としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

これらに加えて、英語での実践的コミュニケーション能力を育成するために、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるこ

ととしている。

平成元年度には「広い視野から国際理解を深め」の文が第一文にあったのが、平成11年度には第三文目になっている。ここから分かるように、2つの学習指導要領の違いについては、平成11年度公示のほうがより、コミュニケーション能力の育成重視傾向がある。しかし、題材について、学校の英語科教育はあくまでも教科科目は人間教育の一環であり、言葉の背景にある諸民族の生活、文化、思考様式等々への関心をいざない、探究心を深めるものでなければならないとしている（江利川，1989）。このことを考慮に入れながら、教科書を分析していきたい。

### 3.2 分析方法

題材を分析するには主観が影響しやすいということから、できるだけ客観的になるように数量分析を行った。1997年に使用開始になった教科書5種類15冊、2002年に使用開始になった教科書5種類15冊を数量的に分析した。分析の範囲は各教科書の lesson または unit と read section とした。それらを主人公、場面設定場所、国名・地名、題材の4つの観点から、日本、アメリカ、イギリス、その他の英語圏<sup>2)</sup>(カナダ、オーストラリア、ニュージーランド)、西欧非英語圏、東欧・旧ソ連、中東、アジアとその他<sup>3)</sup>の13の地域に分類した。lesson に日本人がひとり登場した場合は1とし、日本人とアメリカ人がそれぞれ1人ずつ登場した場合は2分の1、それ以上の場合その人数分で割った。そこで出てきた数を1冊の lesson 数で割り、割合を計算した。残りの3つの観点も同じようにして算出した。さらに、採択率に違いがあるので、先程出てきた割合に採択率をかけて補正した<sup>4)</sup>。

それだけでは、登場しても補正後に数値として出てこないことがあるので、次では内容的な点からも各地域がどのように取り扱われているかを考察した<sup>5)</sup>。

| 項目       | 年号   | 日本  | 米   | 英  | その他の<br>英語圏 <sup>2)</sup> | 西欧非<br>英語圏 | 旧ソ連・<br>東欧 | アジア | 中東 | アフリカ | ラテン<br>アメリカ | その他,<br>不明 |
|----------|------|-----|-----|----|---------------------------|------------|------------|-----|----|------|-------------|------------|
| 主人公      | 1997 | 34% | 20% | 4% | 7%                        | 3%         | 0%         | 3%  | 0% | 6%   | 0%          | 10%        |
|          | 2002 | 35% | 24% | 1% | 18%                       | 0%         | 0%         | 7%  | 1% | 2%   | 2%          | 9%         |
| 設定<br>場所 | 1997 | 44% | 10% | 1% | 1%                        | 3%         | 0%         | 2%  | 1% | 1%   | 0%          | 16%        |
|          | 2002 | 70% | 9%  | 2% | 4%                        | 0%         | 0%         | 7%  | 0% | 1%   | 1%          | 20%        |
| 地名<br>国名 | 1997 | 2%  | 7%  | 2% | 0%                        | 0%         | 0%         | 3%  | 1% | 2%   | 1%          | 0%         |
|          | 2002 | 10% | 14% | 2% | 8%                        | 1%         | 0%         | 8%  | 2% | 2%   | 2%          | 1%         |
| 題材       | 1997 | 23% | 13% | 4% | 3%                        | 2%         | 0%         | 7%  | 0% | 4%   | 1%          | 13%        |
|          | 2002 | 24% | 10% | 4% | 2%                        | 2%         | 1%         | 7%  | 0% | 1%   | 1%          | 5%         |

表 日本の中学校英語教科書における異文化理解：1997年，2002年（採択率補正後：％）

#### 4. 文化圏の扱われ方と題材内容について

##### 4.1 日本

1997年では登場人物では34%, 設定場所は44%, 題材は24%であるのに対して, 2002年では登場人物(35%)と題材(24%)の割合は1997年とほぼ同じであるが, 設定場所は70%と1997年の約2倍となっている。中教審答申や学習指導要領が示すように, 日本人としての自己を確立するとともに, 自分の意見や意思を述べられるようにするために, 場面設定が身近なものとなっている表れである。外国の生徒が日本人の家にホームステイしたり, 親の仕事の都合で日本に移住し, 日本の学校に通うような設定が多くなっている。また, インターナショナルスクールを訪問したり, 外国でホームステイしたり, 国際的な会議やパーティーに出席して外国人との交流により日本の文化を発信するという内容が増えている。

日本文化を紹介するときによく出てきたのが, 折り紙, 将棋, 習字である。夏祭りやお神楽も登場した(NC, L5, 1997; C2, U2, 2002)。落語や俳句が読み物で登場している(NC3, 1997; S2 1997; C1, 2002)。日本食についてよく出てくるのはお寿司, 天ぷら, すき焼きが圧倒的に多いが, たこ焼きが出てきたこともある。外国人と交流する際には, 日本についてどんなことを知っているかを質問したり, 日本について疑問に思うことなどをたずねたりしていることが多い。多い質問として, 「日本食は好きか。」「日本食は作ることができるか。」「日本語を勉強したことがあるか。」「日本語は難しいか。」などである。逆に, 外国人が日本について疑問に思うことは電車の中で居眠りすることや外国人を見ると凝視することなどである(C3, U1, 1997; S1, P14, 1997; C2, U2, 2002)。これらの点は我々がすることが相手に違和感を与え, 文化摩擦に結びつくことを気付かせてくれるであろう。

観光案内的なものもあるが何かテーマと関連させていることが多い。鎌倉の散策中に大仏や禅の歴史が紹介されており(O2, L2, 1997; O1, L8, 2002),

広島と長崎については平和をテーマにしている (NC3, L4, 1997; NC3, L3, 2002)。沖縄旅行ではエイサーだけでなく竹富島の風景を守る島民の話も紹介されている (O3, L2, 2002)。

言葉の違いについては、日本と英語を使う人のジェスチャーの違いや、*mansion* という言葉の使い方の違い、*I'm sorry.* の使い方など知らないという誤解を引き起こすこともあるという例を示している (O, L7, 1997)。また、アイヌが取り上げられている (NC2, L8, 1997; NC2, L7, 2002)。アイヌの歴史を知り、彼らが自分達の文化を守る努力をしているということが取り上げられているのは、日本も多民族社会であることを生徒に気付かせるのにはよいことである。

#### 4.2 アメリカ

登場人物では1997年が20%、2002年が24%、設定場所は1997年が10%、2002年が9%、題材は1997年が13%、2002年が10%である。以前に比べると、米国一辺倒という傾向は低くなっているが、他の地域と比べると高い割合で扱われている。登場人物の多くは日本にやって来たアメリカ人留学生とその家族という設定であったり、日本人留学生の留学先がアメリカという設定が多い。題材的にはアメリカの文化的なものを紹介するものが多い。まず、観光案内的な内容では、ニューヨーク、サンフランシスコ、ロサンゼルス、シカゴのような大都市以外に、主人公がモンタナ州やサウスダコタ州を訪問し、ネイティブアメリカンの居留地や5人の大統領の顔が彫られたラッシュモア山を取り上げていた (O2, L2, 1997)。つぎに、数やおつりの数え方、アメリカ国内の時差、学校生活、ハロウィン、NASA、クリスマスの過ごし方などが多く取り上げられている。言語の違いは、*football* はアメリカではアメリカンフットボールと言い、イギリスではサッカーのことを指すということが指摘されていた (C1, U10, 1997)。また、多言語社会については、ESLに通う生徒が家に帰るとスペイン語を話し、その地域では多く

の人がスペイン語を話すという例を紹介している (O2, L2, 2002)。環境についてはカリフォルニア州の風力発電が紹介されている (C2, U3, 2002)。人間教育の教材として民族の歴史については、黒人問題が取り上げている (NC3, L6, 1997; NC3, L6, 2002) 以外は、読み物でベトナム系 (O3, 2002)、ロシア系の移民の話 (O2, 1997) を使って民族の多様性を紹介している。

第2次世界大戦における日系の女の子の読み物 (O3, 1997; O3, 2002) が登場したことは、1993年度の教科書について、宮崎 (1992) が行なった日系人についてもっと取り扱うべきという指摘を改善したことになるであろう。

#### 4.3 イギリス

登場人物は1997年が4%、2002年が1%、設定場所は1997年が1%、2002年が2%、題材は1997年と2002年とも1%である。教科書により割合が異なるが、アメリカに比べて非常に低い割合になっている。

題材は観光案内的な内容が多く、ロンドンはバッキンガム宮殿、ピカデリーサーカス、ビッグベン等の名所を紹介している。しかし、ケンブリッジの案内ではニュートンの業績を紹介している (C2, U10, 1997)。また、湖水地方の紹介ではピーターラビットの誕生地やナショナルトラスト運動の発祥地として紹介されている (O1, L4, 2002)。文化紹介ではサッカーやテニスが発祥地であると説明されることが多く、そのせいか登場するイギリス人の好きなスポーツがサッカーとテニスであることが多い。さらに、イギリスが England, Scotland, Wales, Northern Ireland 4つの国から成り、それぞれが独自の文化を持っていることを紹介している (NC2, L9, 1997; NC2, L5, 2002)。Walesは言葉と民族の問題として過去に Englandからの言語侵略の歴史があることが扱われている。言葉の問題では英語には訛りがあり理解できないことがあるという紹介がされている (C3, U3, 1997; C3, U6, 2002)。文学作品では『不思議の国のアリス』はよく出てきている (NC1, L6, 1997; NC2, 読み物, 1997; NC1, L5, 2002)。題材を量的に見ると、イ

ギリスは1997年から2002年は減少しており、他の英語圏の国々に追い抜かされつつある。

#### 4.4 英語圏

オーストラリア・ニュージーランド・カナダを指す。中教審答申の中でも、オセアニア地域に目をむけていく必要があるとするように、この地域、特にオーストラリアの扱われ方は年々増えてきている。まず、オーストラリアについては観光案内もしくは文化紹介的な内容が多い。夏のクリスマス、エアーズロック、クリケット、コアラ、カンガルーがよく出てくる。しかし、これらのことを聞くことがよくないという記述がある(C3, U4, 1997)。妹が兄にオーストラリアでコアラやカンガルーを見たかと質問したら、兄は“Australia is not just a country of koalas and kangaroos.”と答え、日本も障子や襖などが紙でできているから、紙の家に住んでいると思われていたことを話した。このやりとりから固定観念でその国のことを話す事を注意しなければならないことを生徒に気付かせることが出来るであろう。

次に多いのがカナダである。カナダについては市内観光以外には、言語が英語とフランス語の2ヶ国語を話すこと(C2, U7, 1997; NC3, L2, 1997)や、様々な国から来た人が住む多民族の国であることが述べられている(C2, U5, 2002)。最後にニュージーランドであるが、1997年、2002年ともにほとんど登場していない。緊急電話番号が紹介されたのと(O1, L2, 1997)、国際理解の授業でカムラスープの作り方を学んだ(S3, P4, 2002)というだけである。ALTについては、教科書に出て来るALTの出身国がこの英語圏地域であることが多い。

#### 4.5 西欧非英語圏

継続的に登場しているが、2002年においては減少している。また、1つの単元を単独で登場していないことが多い。1997年には一単元を使って、

オーストリアが舞台となった *Sound of Music* が出ていたが (S2, P2, 1997; O3, 読み物, 1997), 2002年度にはどの教科書にも登場していない。クリスマスに関連して『きよしこの夜』がオーストリアで誕生したこと (NH2, U7, 1997; NH2, U6, 2002) や, フィンランドのサンタビレッジ (S1, P9, 2002) が紹介されている。オランダやポルトガルは江戸時代に日本と交易があった地域であり, 外来語やいろいろな学問をそれらの国々から習得した経緯がある。そのようなことをもう少し取り上げられるのではないだろうか。

#### 4.6 旧ソ連・東欧諸国

この地域が登場する割合は低い。但し, 旧ソ連に関しては宇宙を扱った題材で登場することが多い。宇宙からの手紙を書いている中に, 宇宙飛行士として旧ソ連人が2名登場した (C3, 読み物, 1997; C3, 読み物, 2002)。また, 人類初の有人宇宙飛行をした人としてガガーリンの話もでてくる (S3, P10, 2002)。読み物では, ロシア人がアメリカへ移民する話が出てきた (O1, 1997)。旧ソ連は極東地域との貿易は活発であることを考えると, もう少し登場の頻度が上っても良いのではないだろうか。

#### 4.7 アジア

中教審答申にあるように, 「アジアを離れては存在し得ない我が国」としては, 国際理解を進めるにあたって, アジア諸国に一層目を向けていく必要がある。それを反映して年々扱われる割合が増えている。バングラディッシュ, ブータン, モンゴル, カンボジア, ネパール, インド, シンガポールなど幅広く登場している。特に, 中国と韓国は距離的にも近く, 文化的にも密接な関係から主人公として登場する回数が増えており, 自然と国名・地名, 場面, 題材の分野でも割合が増えている。

観光案内的な内容では香港観光 (O1, L11, 1997), 万里の長城の紹介 (NC, 読み物, 1997) や, 韓国市内観光 (C, Unit8, 2002; S3, P2, 2002) が取り上

げられている。文化の類似性では中国のジェンズと日本の蹴鞠 (NC3, L5, 1997; NC3, L5, 2002), 韓国のチュソクと日本のお盆 (S3, Pro2, 2002) が取り上げられている。また, 似ているが違うものとして, 韓国と日本の食事作法 (NC3, L3, 1997; O3, L7, 1997; O3, L1, 2002) やインドと日本のカレーの違い (O3, L3, 1997) が扱われている。マザーテレサの活動や, バングラディシュ, ネパール, カンボジアなどでのボランティア活動など, 単に文化紹介ではなく幅広い題材が取り上げられている。

注目すべき内容としてはアジアにおける日本のあり方について以下のような言及があったことである。

I came from Canada to study Japanese culture. I think Japan is too much like a Western country. Japan must remember that it is part of Asia.

Japan learned a lot from China, Korea and other countries in Asia. Over the years people brought many important things from these countries — rice, kanji, and many other things. Japan must not forget its neighbors. (NH2, U6, 1997)

それに対して日本人がアジア諸国に注意を向け直さなければならないと返答したように, アジアの歴史や文化を学び, 理解していくことの大切さに気が付かされる。

#### 4.8 中東

わずかながら上昇しているが, その割合も非常に低い。2002年では単独で1単元の話題にはならなかった。1997年では主人公が夢の中でエジプト上空を飛んでいるときに, 地理的な様子 (紅海, ナイル川, ピラミッド) を説明しながら案内している (C2, U8, 1997)。また, 宇宙から見た地球についての感想を書く宇宙飛行士でサウジアラビア人が登場した (O3, 読み物, 1997; O3, 読み物, 2002)。読み物でシバの女王が登場した (S3, 1997)。中

東には石油資源を依存していて、日本には重要な地域であるのももう少し登場してもよいのではないかと思われる。

#### 4.9 アフリカ

割合は横ばいか増えている。スーダンの飢餓問題を扱ったり (NC3, L7, 1997; NC3, L7, 2002), ケニア出身の生徒を登場させ、ケニアが多言語社会であることを紹介している (NC2, L11, 1997; NC2, L2, 2002)。2002 年ではケニアの多言語社会はイギリスによる植民地支配の歴史の産物であるという紹介をしている。また、飢餓により両親をなくしたり、貧しい子供たちのためのフォスタープログラムが紹介されていた (NH2, U5, 1997)。環境問題については、マダガスカルの海洋汚染を扱っていた (S3, P7, 1997)。

#### 4.10 ラテンアメリカ

主人公として登場することもあり、扱い方はやや上昇している。この地域では、ブラジルに日本人がたくさん移り住んだという歴史があるので、比較的ブラジルが登場する割合が多い。メキシコは観光案内的な内容で登場し (O2, L3, 2002), サッカー人気も取り上げられている。読み物の中にグアテマラでは *The Green Lizard* という緑のトカゲの話が登場したり (NH2, 読み物, 2002), チリで行われている霧から水を取るネットを取り付けるという環境対策の話が登場した (O2, 読み物, 2002)。日本人とブラジル人との交流 (O1, L10, 2002) が 1 章を使って取り上げられているが、両国のつながりを考えるともう少し登場してもよいかもしれない。

#### 4.11 その他

上に述べた地域に当てはまらない福祉、環境、宇宙、情報、言葉などについて、ここでは述べていく。高年齢化社会に向けて老人介護 (S2, P5, 2002) や介助犬 (NC1, L11, 1997; NC1, L8, 2002) について取扱っているものが登

場している。つぎに、環境は1997年で7つ、2002年で8つ取り上げられており。例として、漁師が海を守るために植林をしていることが紹介されている(S3, P9, 2002)。山が破壊されると海に影響があるということを考えさせる。また、環境に関するティーンエイジサミット(O3, L1, 1997)では、自分ならどのように考えるかなど、生徒に考えさせる内容となっている。宇宙については1997年と2002年ともに3つで、宇宙から見る地球はきれいで国境がないので、外から見るように環境保全に気を配り戦争のない平和な地球にしようという呼びかけになっている(S3, P7, 1997; NH1, U2, 2002)。情報については、情報化が進行し、コンピューターの普及に伴い、教科書でもemailやインターネットを使った情報交換する場面が増えてきた。インターネットコミュニケーションに関して単独で単元を形成している数は1997年が1つであったのに対して、2002年になると4つになっていた。HPを使って外国の学校の情報を調べたり、掲示板を使って意見交換をしたり、emailで文通をしたりと英語を使って実際に情報交換する方法を示していた。実際にHPを作ったり、掲示板やemailを交換する機会を作るとよいように思われる。言葉に関しては、言葉と民族の結びつきについて、WalesがEnglandから韓国が日本から受けた言語侵略について取り上げ、人間にとって言語はどういうものかを考えさせる内容となっている(NC3, 読み物, 1997; NC3, 読み物, 2002)。その際に、アイヌやマオリなどの民族の名前が挿絵とともに登場していることもある。また、世界共通語としての英語やなぜ英語を勉強しなければならないかが取り上げられることも多い(NH3, U7, 1997; C3, U1, 2002)。言語に関して、目を引く内容として、手話が取り上げられており、手話が単なるジェスチャーではなく、言語であり文法も持っていることを紹介している(C3, U5, 2002)。鯨が音を使って仲間とコミュニケーションを図るということも示されており、コミュニケーションの手段が言葉だけではないことを伝えようとしている(NC2, 読み物, 2002)。それ以外には、外国へ出国する際の機内、入国審査、税関などの会話、英文

の手紙の書き方や世界の時刻や天候を聞くといった、実際にコミュニケーションの場面を想定したものが増えていた。

## 5. おわりに

以上のように、1997年、2002年に使用開始の中学校英語教科書の題材における異文化理解について考察してきた。学習指導要領にあるように、国際社会を生き抜く日本人としての資質を身に付けるという点では2002年の教科書中に日本に関する記述が大幅に増えたことが大いに注目すべきである。また、以前は説明形式であった本文がプレゼンテーションの後、質疑応答やディスカッションに変わっていたという点は、コミュニケーション能力の育成を重視する姿勢の表れであろう。しかし、宮崎（1992）が指摘したように、1997年、2002年ともに、まだまだ文化紹介の域を出ず、国に対する誇りや日本人としての自信が表れているものは少ない。また内容は教科書のページ数などの関係もあり表面的なものが多く、読んでいるともう少し知りたいと思う内容であり、担当教師の裁量に負うところが多いように思われる。

題材的にはアジア、オセアニア地域など地理的だけではなく、アメリカのような密接な交流を続けている国々の扱われ方は増加しているが、その反面、西欧非英語諸国、東欧・旧ソ連、アフリカ、ラテンアメリカは扱われ方が少なくなっている。ここから考えると、地理的、政治的、経済的につながりの強い地域が多く取り上げられているのが特徴である。また、題材の中には年度が変わっても同じ題材を使用しているのは、その題材を生徒に理解させたいという気持ちの表れであろう。しかし、先に述べたように、同じことを繰り返して提示していると、それがその国に対するステレオタイプとして定着してしまい、文化的摩擦を生むことがあるということも配慮しなければならない。

あまり取り上げられていない地域や題材をどうしていくかが今後の課題で

ある。教科書の分量や50分で週3回の英語の授業時間を考えると、なかなか十分な時間が取れないのが現状である。社会などの他教科と連携していくことや、中教審答申では総合的な学習の時間で国際理解教育を行うことが可能であると示している。今後は提携状況などを調べていく必要があるだろう。しかし、平成15年に行われた公立小中学校教育課程編成・実施状況調査によると、国際理解活動を実施しているのは中学校全体で25.3%であり、環境(35.0%)、福祉・健康(38.9%)についで割合になっている(文部科学省, 2004)。その様な状況の中で、まだまだ英語科教育の中で異文化理解を行っていくことは人間教育という観点からも大切であり、改良する必要がある。

#### 注

- 1) 本論文は2004年11月21日JACET関西支部「海外の外国語教育」研究会で発表したものに加筆修正を加えたものである。
- 2) 英語圏はカナダ、オーストラリア、ニュージーランドを指す。表の数値は3カ国の合計である。
- 3) その他には、出身地や国名が特定できない人物や場所を分類した。動物や宇宙などが含まれる。
- 4) 分析方法は、江利川(1992)を参考に行った。国名・地名は具体的な名前が出てこないことが多かったので、抽出方法に違いがあるのか江利川(1992)に比べると、数値が低くなっている。
- 5) 分析結果を論じる時に教科書の略語を使用した。*COLNMBUS ENGLISH COURSE*はC, *NEW CROWN ENGLISH SERIES, New Edition*はNC, *NEW HORIZON English Course*はNH, *ONE WORLD English Course*はO, *SUNSHINE ENGLISH COURSE*はSと示し、その横の数字は学年を表す。また各单元についても、LessonはL, UnitはU, ProgramはP, Reading sectionは読み物とした。

#### 参考文献

青木 庸效 『英語科教育—授業入門—』。英宝社, 東京, 1989年。

- 「英語教材の中の題材」, 日本英語教育史研究, 『日本英語教育史』第6号, pp87-109, 1991年5月。
- 江利川春雄 「真の異文化理解を目指した題材論の確立のために」 *KELT* Vol.5 pp75-96, 神戸大学大学院教育学研究科英語教育研究会 1989年11月。
- 「英語科教育における題材内容と時代背景」『中部地区英語教育学紀要』20号, pp285-290 中部地区英語教育学会, 1991年5月。
- 「戦後の英語教科書にみる異文化理解の変遷」『日本英語教育史研究』第7号 p.113-145 日本英語教育史研究会 1992年5月。
- 亀井浩明, 有園格・佐野金吾編 『中教審答申から読む21世紀の教育』ぎょうせい, 東京, 1996年。
- 時事通信社 「選択教科拡大で207万冊の増 平成5年度中学校教科書採択状況—時事通信社調査」『内外教育』pp.2-4 1992年11月。
- 「前年度比15.3%増の430万冊に 新課程の中学校教科書採択状況—文科省まとめ」『内外教育』pp.2-4 2001年11月。
- 松村 省一 「中学校英語教科書における国際理解について—題材の観点から」 *KELT* vol.9 神戸大学大学院教育学研究科英語教育研究会 pp.34-45 1993年。
- 宮崎 裕治 「中学校英語教科書に見る国際化」, 『大阪国際大学紀要』Vol.5 No.2, pp87-96, 1992年12月。
- 文部省 『文部時報』8月臨時増刊号 ぎょうせい, 東京, 1987年。
- 『中学校指導書 外国語篇』開隆堂出版, 東京, 1989年。
- 『中学校学習指導要領解説 外国語編』東京書籍, 東京, 1999年。
- 文部科学省 「初等中等教育における国際教育推進委員会(第1回)配布資料[資料3-1]」 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/026/shiryou/04102501/001/001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/shiryou/04102501/001/001.htm). 2004年9月1日。

#### 分析教科書一覧 (カッコ内の数字は採択率を表す)

[1997年度]

*COLNMBUS ENGLISH COURSE* 東後勝明・松野和彦 他11名 光村図書出版。(2.4%)

*NEW CROWN ENGLISH SERIES, New Edition* 森住衛 他31名 三省堂。(16.4%)

*NEW HORIZON English Course* 浅野博・下村勇三郎・牧野勤 他47名 東京書籍。(39.7%)

*ONE WORLD English Course* 佐々木輝雄ほか 22 名 教育出版。(6.6%)

*SUNSHINE ENGLISH COURSE* 松畑熙一／松本青也／和田稔／佐野正之  
他 26 名 開隆堂出版。(25.6%)

[2002 年度]

*COLNMBUS ENGLISH COURSE* 東後勝明・松野和彦 他 11 名 光村図書  
出版。(2.0%)

*NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition* 森住衛 他 31 名 三省堂。  
(21.9%)

*NEW HORIZON English Course* 浅野博・下村勇三郎・牧野勤 他 47 名  
東京書籍。(41.1%)

*ONE WORLD English Course* 佐々木輝雄ほか 22 名 教育出版。(3.8%)

*SUNSHINE ENGLISH COURSE* 島岡丘／青木昭六／松畑熙一／和田稔 他 32  
名 開隆堂出版。(22.6%)

1997 年度  
主人公

|             | 日本  | アメリカ | イギリス | 豪  | NZ | カナダ | 英語圏 | 西欧非英語圏 | 旧ソ連・東欧 | アジア | 中東 | アフリカ | ラテンアメリカ | その他、不明 |
|-------------|-----|------|------|----|----|-----|-----|--------|--------|-----|----|------|---------|--------|
| Columbus    | 37% | 41%  | 0%   | 1% | 0% | 3%  | 4%  | 1%     | 1%     | 0%  | 2% | 0%   | 0%      | 8%     |
| New Crown   | 56% | 16%  | 5%   | 0% | 0% | 1%  | 1%  | 1%     | 0%     | 9%  | 0% | 7%   | 0%      | 17%    |
| New Horizon | 38% | 23%  | 4%   | 1% | 0% | 8%  | 9%  | 2%     | 0%     | 0%  | 0% | 10%  | 0%      | 14%    |
| One World   | 29% | 24%  | 4%   | 8% | 0% | 2%  | 9%  | 3%     | 3%     | 5%  | 0% | 0%   | 0%      | 6%     |
| Sunshine    | 29% | 20%  | 6%   | 3% | 0% | 6%  | 10% | 8%     | 0%     | 4%  | 0% | 5%   | 1%      | 6%     |
| 計（補正後）      | 34% | 20%  | 4%   | 2% | 0% | 5%  | 7%  | 3%     | 0%     | 3%  | 0% | 6%   | 0%      | 10%    |

## 設定場所

|             | 日本  | アメリカ | イギリス | 豪   | NZ | カナダ | 英語圏 | 西欧非英語圏 | 旧ソ連・東欧 | アジア | 中東 | アフリカ | ラテンアメリカ | その他、不明 |
|-------------|-----|------|------|-----|----|-----|-----|--------|--------|-----|----|------|---------|--------|
| Columbus    | 70% | 8%   | 5%   | 0%  | 0% | 0%  | 0%  | 3%     | 0%     | 0%  | 0% | 0%   | 0%      | 10%    |
| New Crown   | 62% | 4%   | 3%   | 1%  | 0% | 0%  | 1%  | 0%     | 0%     | 3%  | 0% | 5%   | 0%      | 23%    |
| New Horizon | 55% | 6%   | 1%   | 0%  | 0% | 0%  | 0%  | 2%     | 0%     | 3%  | 0% | 0%   | 0%      | 20%    |
| One World   | 17% | 32%  | 8%   | 14% | 0% | 0%  | 14% | 3%     | 3%     | 0%  | 0% | 0%   | 0%      | 17%    |
| Sunshine    | 37% | 19%  | 0%   | 0%  | 0% | 0%  | 0%  | 6%     | 0%     | 3%  | 5% | 0%   | 0%      | 13%    |
| 計（補正後）      | 44% | 10%  | 1%   | 1%  | 0% | 0%  | 1%  | 3%     | 0%     | 2%  | 1% | 1%   | 0%      | 16%    |

## 国名・地名

|             | 日本  | アメリカ | イギリス | 豪  | NZ | カナダ | 英語圏 | 西欧非英語圏 | 旧ソ連・東欧 | アジア | 中東 | アフリカ | ラテンアメリカ | その他、不明 |
|-------------|-----|------|------|----|----|-----|-----|--------|--------|-----|----|------|---------|--------|
| Columbus    | 3%  | 3%   | 15%  | 5% | 5% | 0%  | 10% | 0%     | 0%     | 0%  | 3% | 0%   | 0%      | 0%     |
| New Crown   | 22% | 11%  | 4%   | 0% | 0% | 3%  | 3%  | 0%     | 0%     | 14% | 0% | 10%  | 0%      | 8%     |
| New Horizon | 31% | 9%   | 0%   | 0% | 0% | 4%  | 4%  | 0%     | 0%     | 0%  | 0% | 0%   | 3%      | 0%     |
| One World   | 7%  | 24%  | 0%   | 0% | 3% | 0%  | 3%  | 0%     | 0%     | 11% | 0% | 0%   | 3%      | 0%     |
| Sunshine    | 3%  | 16%  | 3%   | 0% | 0% | 0%  | 0%  | 1%     | 0%     | 4%  | 3% | 5%   | 3%      | 0%     |
| 計（補正後）      | 2%  | 7%   | 2%   | 0% | 0% | 0%  | 0%  | 0%     | 0%     | 3%  | 1% | 2%   | 1%      | 0%     |

## 題材

|             | 日本  | アメリカ | イギリス | 豪   | NZ | カナダ | 英語圏 | 西欧非英語圏 | 旧ソ連・東欧 | アジア | 中東 | アフリカ | ラテンアメリカ | その他、不明 |
|-------------|-----|------|------|-----|----|-----|-----|--------|--------|-----|----|------|---------|--------|
| Columbus    | 4%  | 19%  | 13%  | 9%  | 3% | 3%  | 14% | 3%     | 0%     | 4%  | 3% | 0%   | 0%      | 10%    |
| New Crown   | 22% | 11%  | 4%   | 0%  | 0% | 3%  | 3%  | 0%     | 0%     | 14% | 0% | 10%  | 0%      | 8%     |
| New Horizon | 30% | 9%   | 1%   | 0%  | 0% | 3%  | 3%  | 3%     | 0%     | 7%  | 0% | 4%   | 0%      | 23%    |
| One World   | 19% | 17%  | 8%   | 10% | 1% | 0%  | 11% | 3%     | 0%     | 11% | 0% | 0%   | 3%      | 6%     |
| Sunshine    | 23% | 24%  | 8%   | 3%  | 0% | 0%  | 3%  | 3%     | 0%     | 5%  | 0% | 3%   | 3%      | 8%     |
| 計（補正後）      | 23% | 13%  | 4%   | 2%  | 0% | 2%  | 3%  | 2%     | 0%     | 7%  | 0% | 4%   | 1%      | 13%    |

2002 年度  
主人公

|             | 日本  | アメリカ | イギリス | 豪   | NZ | カナダ | 英語圏 | 西欧非英語圏 | 旧ソ連・東欧 | アジア | 中東 | アフリカ | ラテンアメリカ | その他、不明 |
|-------------|-----|------|------|-----|----|-----|-----|--------|--------|-----|----|------|---------|--------|
| Columbus    | 33% | 32%  | 0%   | 1%  | 0% | 6%  | 7%  | 0%     | 0%     | 13% | 0% | 0%   | 0%      | 8%     |
| New Crown   | 38% | 21%  | 3%   | 0%  | 0% | 4%  | 4%  | 1%     | 0%     | 5%  | 0% | 9%   | 0%      | 12%    |
| New Horizon | 32% | 12%  | 0%   | 22% | 0% | 10% | 32% | 0%     | 0%     | 0%  | 2% | 0%   | 3%      | 7%     |
| One World   | 34% | 33%  | 0%   | 0%  | 0% | 1%  | 1%  | 0%     | 0%     | 10% | 0% | 0%   | 4%      | 2%     |
| Sunshine    | 48% | 27%  | 2%   | 2%  | 4% | 6%  | 12% | 1%     | 0%     | 10% | 0% | 0%   | 4%      | 7%     |
| 計（補正後）      | 35% | 24%  | 1%   | 10% | 1% | 8%  | 18% | 0%     | 0%     | 7%  | 1% | 2%   | 2%      | 9%     |

設定場所

|             | 日本  | アメリカ | イギリス | 豪  | NZ | カナダ | 英語圏 | 西欧非英語圏 | 旧ソ連・東欧 | アジア | 中東 | アフリカ | ラテンアメリカ | その他、不明 |
|-------------|-----|------|------|----|----|-----|-----|--------|--------|-----|----|------|---------|--------|
| Columbus    | 60% | 3%   | 3%   | 0% | 0% | 6%  | 6%  | 0%     | 0%     | 11% | 0% | 3%   | 0%      | 18%    |
| New Crown   | 76% | 4%   | 6%   | 1% | 0% | 3%  | 4%  | 0%     | 0%     | 6%  | 0% | 1%   | 0%      | 11%    |
| New Horizon | 55% | 7%   | 0%   | 3% | 0% | 0%  | 3%  | 0%     | 0%     | 5%  | 0% | 0%   | 3%      | 27%    |
| One World   | 50% | 34%  | 0%   | 0% | 0% | 0%  | 0%  | 0%     | 3%     | 0%  | 0% | 0%   | 3%      | 0%     |
| Sunshine    | 71% | 15%  | 3%   | 4% | 0% | 0%  | 4%  | 1%     | 0%     | 4%  | 0% | 0%   | 0%      | 11%    |
| 計（補正後）      | 70% | 9%   | 2%   | 3% | 0% | 2%  | 4%  | 0%     | 0%     | 7%  | 0% | 1%   | 1%      | 20%    |

国名・地名

|             | 日本  | アメリカ | イギリス | 豪   | NZ | カナダ | 英語圏 | 西欧非英語圏 | 旧ソ連・東欧 | アジア | 中東 | アフリカ | ラテンアメリカ | その他、不明 |
|-------------|-----|------|------|-----|----|-----|-----|--------|--------|-----|----|------|---------|--------|
| Columbus    | 9%  | 13%  | 6%   | 3%  | 1% | 8%  | 13% | 1%     | 1%     | 15% | 1% | 3%   | 3%      | 6%     |
| New Crown   | 4%  | 9%   | 3%   | 3%  | 0% | 3%  | 6%  | 0%     | 0%     | 4%  | 3% | 3%   | 0%      | 3%     |
| New Horizon | 18% | 17%  | 0%   | 13% | 0% | 3%  | 17% | 2%     | 0%     | 7%  | 0% | 0%   | 3%      | 0%     |
| One World   | 17% | 18%  | 3%   | 0%  | 0% | 0%  | 0%  | 1%     | 0%     | 20% | 0% | 0%   | 7%      | 0%     |
| Sunshine    | 2%  | 20%  | 7%   | 0%  | 0% | 0%  | 0%  | 0%     | 2%     | 13% | 7% | 4%   | 0%      | 0%     |
| 計（補正後）      | 10% | 14%  | 2%   | 6%  | 0% | 2%  | 8%  | 1%     | 0%     | 8%  | 2% | 2%   | 2%      | 1%     |

題材

|             | 日本  | アメリカ | イギリス | 豪  | NZ | カナダ | 英語圏 | 西欧非英語圏 | 旧ソ連・東欧 | アジア | 中東 | アフリカ | ラテンアメリカ | その他、不明 |
|-------------|-----|------|------|----|----|-----|-----|--------|--------|-----|----|------|---------|--------|
| Columbus    | 14% | 0%   | 3%   | 0% | 0% | 3%  | 3%  | 0%     | 0%     | 8%  | 0% | 3%   | 3%      | 3%     |
| New Crown   | 15% | 11%  | 11%  | 3% | 0% | 4%  | 7%  | 0%     | 0%     | 9%  | 0% | 6%   | 0%      | 11%    |
| New Horizon | 23% | 10%  | 0%   | 0% | 0% | 0%  | 0%  | 3%     | 0%     | 5%  | 0% | 0%   | 0%      | 0%     |
| One World   | 28% | 13%  | 0%   | 0% | 0% | 0%  | 0%  | 0%     | 3%     | 16% | 0% | 0%   | 7%      | 3%     |
| Sunshine    | 44% | 15%  | 6%   | 4% | 4% | 0%  | 0%  | 4%     | 2%     | 9%  | 0% | 0%   | 2%      | 11%    |
| 計（補正後）      | 24% | 10%  | 4%   | 1% | 1% | 1%  | 2%  | 2%     | 1%     | 7%  | 0% | 1%   | 1%      | 5%     |